

第 44 回全国都市緑化フェア from SAGA

基本計画

令和 8 年 3 月

目次

1. 開催概要

- 1-1. 開催の趣旨 p.1
- 1-2. 基本的な考え方 p.2
- 1-3. 佐賀らしい緑化フェアの方向性 p.3
- 1-4. 環境・緑化政策に係る国際的・全国的な動向 ... p.6

2. 基本的事項

- 2-1. 名称等 p.7
- 2-2. 主催等 p.8
- 2-3. 開催期間
- 2-4. 会場
- 2-5. 入場方式 p.10
- 2-6. イメージキャラクター

3. 会場計画

- 3-1. 会場コンセプト p.11
- 3-2. 会場ゾーニング p.12

4. 事業計画

- 4-1. 展示計画 p.19
- 4-2. 出展計画 p.21
- 4-3. 行催事計画 p.23
- 4-4. 協働推進計画 p.25
- 4-5. 飲食物販計画 p.26
- 4-6. 会場運営計画 p.27
- 4-7. 広報宣伝計画 p.28
- 4-8. 植物調達計画 p.29
- 4-9. 交通輸送計画 p.30

5. 事業推進体制等

- 5-1. 事業推進体制 p.32
- 5-2. 事業スケジュール

Ⅰ．開催概要

Ⅰ－Ⅰ．開催の趣旨

佐賀県は、有明海と玄界灘という2つの海に面し、山や川、クリークが身近にあります。長い歴史において、佐賀の人々は、山に植林し、川の治水と利水に力を尽くし、海に堤防を築くことで、自然と共生した実りある豊かな暮らしをつくりあげてきました。県では、「森川海はひとつ」という思いで、この豊かな森・川・海を人が未来につなぐ「森川海人っプロジェクト」に取り組んでいます。

佐賀の山を源流として潤う佐賀のまちでは、人々の手により、緑を増やし育て、花で地域を彩りもてなす活動や、豊かな緑を活かした佐賀の「本物」の良さを体感する取組が、各地域で進められています。

佐賀の花と緑の価値を未来につなぐ、こうした動きを推し進め、ひとりひとりが自然との共生について考え、行動するきっかけとするために、国内最大級の花と緑の祭典「全国都市緑化フェア」を開催します。

「さがデザイン※¹」による磨き上げも行いながら、山を大切にする人々の輪を広げる「山の博覧会（SAGA JAM）※²」と一緒にあって、全国の方々に佐賀の花と緑、山の素晴らしさを発信し、ひとりひとりの花づくり、緑づくりなどの自発の取組によって佐賀の豊かな自然環境を未来につなげていきます。

※¹ さがデザイン：佐賀ゆかりのクリエイターと連携したデザイン視点での施策の磨き上げ

※² 山の博覧会（SAGA JAM）：森川海人っプロジェクト（H29～）で積み重ねてきた、森・川・海のつながりと人との関わりを人が未来につなぐ取組とともに、県内で広がっている自発の地域づくりをみんなで自由に楽しむ発表の集合体として、令和10（2028）年の春から秋にかけて開催。

1-2. 基本的な考え方

理 念

全ての人々に恩恵をもたらす森・川・海を未来へ
～ 佐賀の花と緑の価値を未来につなぐ～

目的・レガシー

自然との共生について考え、行動するきっかけとし、
「自発の地域づくり」につなげる

事業の柱

地域 自発の地域づくり

- ✓県民と地域が主役の
自発的な地域づくり
- ✓地域の自発的な緑化
活動の推進
- ✓自発の地域づくりの
核となる人材育成

人 志を持った人づくり

- ✓志を持って挑戦する人材の
育成
- ✓骨太で健やかなこどもたちを
育む取組
- ✓未来の花と緑の担い手づくり

交流 協働による交流

- ✓CSO、学校、企業等
による協働の場の創出
- ✓多様な人々が参加できる
交流の場の創出
- ✓花と緑をきっかけとした
新たな出会い、人と人の
つながり

価値 本物の価値

- ✓花と緑、山の素晴らしさ
の体感
- ✓自然、歴史や文化など
佐賀の本物に触れる
唯一無二の体験
- ✓地域資源の更なる磨き上げ・
新たな価値の創出

佐賀の過去・現在・未来を 緑でつなぐ

佐賀の誇れる歴史<グリーンインフラの先駆け>

佐賀は、弥生時代のクニのはじまりを伝える極めて歴史的価値の高い吉野ヶ里遺跡を有し、歴史を大切にする文化が根付いています。

また、長い歴史において、先人たちの知恵と工夫により治水と利水に取り組み、水の恵みにあふれる県土をつくりあげてきました。

そして、幕末・維新期に「技」「人」「志」により日本を牽引した誇れる歴史と、それを引き継いだ挑戦するマインドが息づいています。

そうした歴史の中でも、日本一の干満差を利用した有明海の干拓や、大規模な植林、成富兵庫茂安を中心とした治水・利水などにより、自然を抑え込むのではなく、自然と共生してきた佐賀の先人たちの取組は、近年世界的に注目されているグリーンインフラ※の先駆けとも言えます。

※グリーンインフラ：将来にわたって持続可能で魅力あるまちづくり・地域づくりや、「心地よく、安心して、豊かに暮らせている」という実感につながる、人と自然の関わりからつくられる自然の多様な機能を活用した社会資本。

緑でつなぐ＜グリーンコミュニティの形成＞

先人たちが佐賀の地で実現してきた自然との共生を未来へとつないでいくためには、県民ひとりひとりが自然を理解・尊重し、共生に向けてできることを考え、行動に移すことが重要です。

そのきっかけとして、緑化フェアを花や緑に関わる身近な活動の楽しさや良さを知っていただく機会とすることで、県民と地域を主役とするグリーンインフラの維持・拡大など、自然との共生に向けた取組を積極的に行うグリーンコミュニティ※の形成を目指します。

※グリーンコミュニティ：多様な主体（住民・行政・企業など）がグリーンインフラの整備・維持に積極的に関わることで形成される共助の地域コミュニティ。

花と緑を植えること、育てること、見ること、学ぶこと、食べること等、緑を通じた様々な関わり方を通じて、佐賀の過去に光を当て、佐賀の現在の価値を感じられる場を創り出し、佐賀の未来の姿を描き出すことで、佐賀らしい緑化フェアをつくりあげていきます。

緑化フェアの様々な価値を 日常に還元する

ひとりひとりの県民の参画につながる連携体制を構築

「自発の地域づくり」につなげ、県民が実感できるレガシーに

緑化フェアは、花や緑の価値に加え幅広い分野で様々な価値を生み出す可能性を持っています。

県民の日常生活に関わる幅広いテーマを通じて、ひとりひとりの県民の参画につながるよう、県民や民間事業者、関係団体等との連携体制を構築していきます。

県民ひとりひとりによる「自発の地域づくり」につなげ、緑化フェアが生み出す様々な価値を県民が日常生活で実感できるものとしていきます。

1 県民参加	2 防 災	3 まちづくり
4 スロー ツーリズム	5 テクノロジー	6 健 康
7 生物多様性	8 伝統文化	9 地域産業

1-4. 環境・緑化政策に係る国際的・全国的な動向

近年、世界的規模の課題となっている動植物の絶滅に対し、2022年12月にカナダのモントリオールで開催されたCOP15^{※1}において、「昆明・モントリオール生物多様性枠組」が採択され、2030年にネイチャーポジティブ^{※2}を達成するという目標が掲げられました。

これに加え、防災・減災、暑熱対策といった様々な社会的課題の解決に向けて、国は、グリーンインフラの社会実装等の取組を推進しており、グリーンインフラ推進戦略2030（2026年1月策定）では、将来にわたり持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくり及びWell-being^{※3}の向上のため、「グリーンインフラの活用が当たり前の社会」の実現を図ることとされています。

- ※1 生物多様性条約第15回締約国会議
- ※2 生物多様性の損失を止め、回復軌道に乗せること
- ※3 身体的・精神的・社会的に満たされた良い健康状態

こういった国際的・全国的な潮流の中で、2027年に横浜市で開催される国際園芸博覧会^{※4}では、園芸・造園等への最先端デジタル技術の導入やグリーンインフラの実装等による「SDGsの達成に貢献し、その先の社会も見据えた日本モデルの提示」を開催意義の一つに掲げています。また、花や緑との関わりを通じ、自然と共生した持続可能で幸福感が深まる社会の創造を提案するとされています。

- ※4
 - 名称 2027年国際園芸博覧会
 - 会場 旧上瀬谷通信施設（神奈川県横浜市）
 - 期間 令和9（2027）年3月19日（金）～9月26日（日）

国際園芸博覧会の翌年に佐賀で開催する緑化フェアにおいても、「全ての人々に恩恵をもたらす森・川・海を未来へ」という理念のもと、ひとりひとりが自然との共生について考え、行動する意義について、佐賀から世界に向けてメッセージを打ち出していきます。

2. 基本的事項

2-1. 名称等

【名 称】第44回全国都市緑化フェア from SAGA

自然との共生について考え、行動するきっかけとなるよう、佐賀ならではのメッセージを佐賀から国内や世界に届けたいとの思いから「from SAGA」としています。

【愛 称】SAGA GREEN JAM

山の博覧会（SAGA JAM）と共通の理念で開催する大会として、緑（GREEN）でJAMろう（一人一人が楽しく参加しよう）という想いを込めています。

【テーマ】みどりとあおのいぶき

山の博覧会（SAGA JAM）と共通のコンセプトであり、
みどり＝ 山、花と緑
あお ＝ 川、海、まちの空、地球
いぶき＝ 呼吸しつづけること、自発的・持続的に活動すること
を表しています。

【シンボルマーク】検討中

※緑化フェアの開催趣旨・基本的な考え方等をもとに、分かりやすく親しみやすいシンボルマークを設定します。

2－2．主催等

【主 催】佐賀県、公益財団法人都市緑化機構

【実施主体】緑化フェアの実施組織として実行委員会を設置

【提 唱】国土交通省

2－3．開催期間

令和10（2028）年3月25日（土）～5月28日（日）

【65日間】

2－4．会場

【メイン会場】

吉野ヶ里歴史公園



森林公園



佐賀城公園



【パートナー会場】 ※令和８年３月時点
 ※パートナー会場の申請期限を令和８年６月末
 としており、更なる増加を見込んでいます。

会場名	所在市町
神野公園	佐賀市
東よか干潟ビジターセンター ひがさす	
肥前国庁跡歴史公園	
中央大通り（バルーンミュージアム）	
松浦河畔公園	唐津市
（調整中）	鳥栖市
多久市中央公園	多久市
きたがた四季の丘公園	武雄市
乳待坊公園いこいの広場	
旭ヶ岡公園	鹿島市
祐徳稻荷神社周辺	
肥前浜宿周辺	
小城公園	小城市
牛津総合公園	
高取山公園	神埼市
横武クリーク公園	
中央公園	基山町
基山（きざん）草スキー場	
大興善寺	
瀧光徳寺	
オキナグサの丘	
有田ポーセリンパーク	有田町
ボタ山わんぱく公園	大町町

計２２か所（１１市町）

※パートナー会場は、市町や地域等による手挙げ方式により設置するものであり、市町が管理している公園や、地域の特色あるエリア等を想定しています。

2－5．入場方式

メイン会場への入場について、佐賀フェアとしての料金は設定しません。なお、既存の有料公園は、運営主体が定める料金体系とします。

また、特定のイベントやプログラムは、一部有料とすることを検討します。

2－6．イメージキャラクター

森川海人（もりかわかいと）くん



山から受けとる、人がつなぐ



3. 会場計画

3-1. 会場コンセプト

吉野ヶ里歴史公園



- ・日本最大規模の弥生時代環壕集落跡
- ・遺跡や出土品に関連する体験コンテンツを提供
- ・キャンプ場を含む官民連携事業を展開

過去

過去（古代）の価値に
光を当てる

本物の歴史と緑を
体感するフィールド

森林公園



- ・スポーツやレクリエーションの広域拠点
- ・バルーンフェスタの会場と近い
- ・自然環境、健康等をテーマとしたイベントも定着

現在

現在の暮らしを支える
森・川・海の価値を
感じられる場をつくる

県民の多様な活動を
発展させるフィールド

佐賀城公園



- ・行政・文化施設、住居が混在するエリア
- ・水と緑に囲まれた豊かな環境
- ・鍋島藩や幕末維新と関係の深い歴史・地域資源

未来

まちと公園の
未来の価値を描き出す

まちと緑の新たなかたちを
創出するフィールド

3-2. 会場ゾーニング

○吉野ヶ里歴史公園

過去

過去（古代）の価値に
光を当てる

本物の歴史と緑を体感するフィールド

●緑化フェアでの新たなチャレンジ

夕方から夜にかけてのコンテンツ

●コンテンツ（イメージ）

✓「古代」の雰囲気を感じ
触れられる取組

- ・ 本物の遺跡群のライトアップ
- ・ 古代食、火おこし、染色等の
体験プログラム

✓本物の歴史と広大な空間
を活かしたイベント

- ・ OPEN-AIR で楽しむイベント

✓多様な植物の学びや農の
恵みを楽しむ企画

- ・ 古代の植物を知る森の観察会
- ・ 農作物を育て収穫し味わう
プログラム

✓歴史と緑のフィールド
づくり

- ・ 「歴史」（過去）をテーマとした
ウェルカムスポット
- ・ 協働でつくる花と緑をテーマと
した展示・出展

吉野ヶ里歴史公園(会場イメージ)

過去

本物の歴史と緑を体感するフィールド

ウェルカムスポット (過去)



歴史・自然・文化を体感する
アウトドアゾーン



本物の歴史と広大な空間を活かした
イベントゾーン



シンボル花壇



園路修景



古代の暮らし体験ゾーン



農作物を育て収穫し味わう
プログラム

国営区域との連携



古代の森ゾーン



古代の植物を知る
森の観察会・染色体験等



古代の暮らし体験ゾーン

歴史にふれる体験

ウェルカムスポット



○森林公園

現在

現在の暮らしを支える
森・川・海の価値を
感じられる場をつくる

県民の多様な活動を発展させるフィールド

●緑化フェアでの新たなチャレンジ

活発なアクティビティプログラム

●コンテンツ（イメージ）

✓「森川海」を体感できる
ロケーションを最大限に
活かした取組

- ・ バルーンで上空から森川海の
つながりを知るプログラム
- ・ 佐賀の治水・利水の歴史を
学ぶプログラム
- ・ 森川海のとつながりや生物多様性
などを学ぶワークショップ

✓芝生広場と水景を活かした
取組

- ・ 協働でつくる花と緑をテーマと
した展示・出展
- ・ 「現在」をテーマとしたウェル
カムスポット

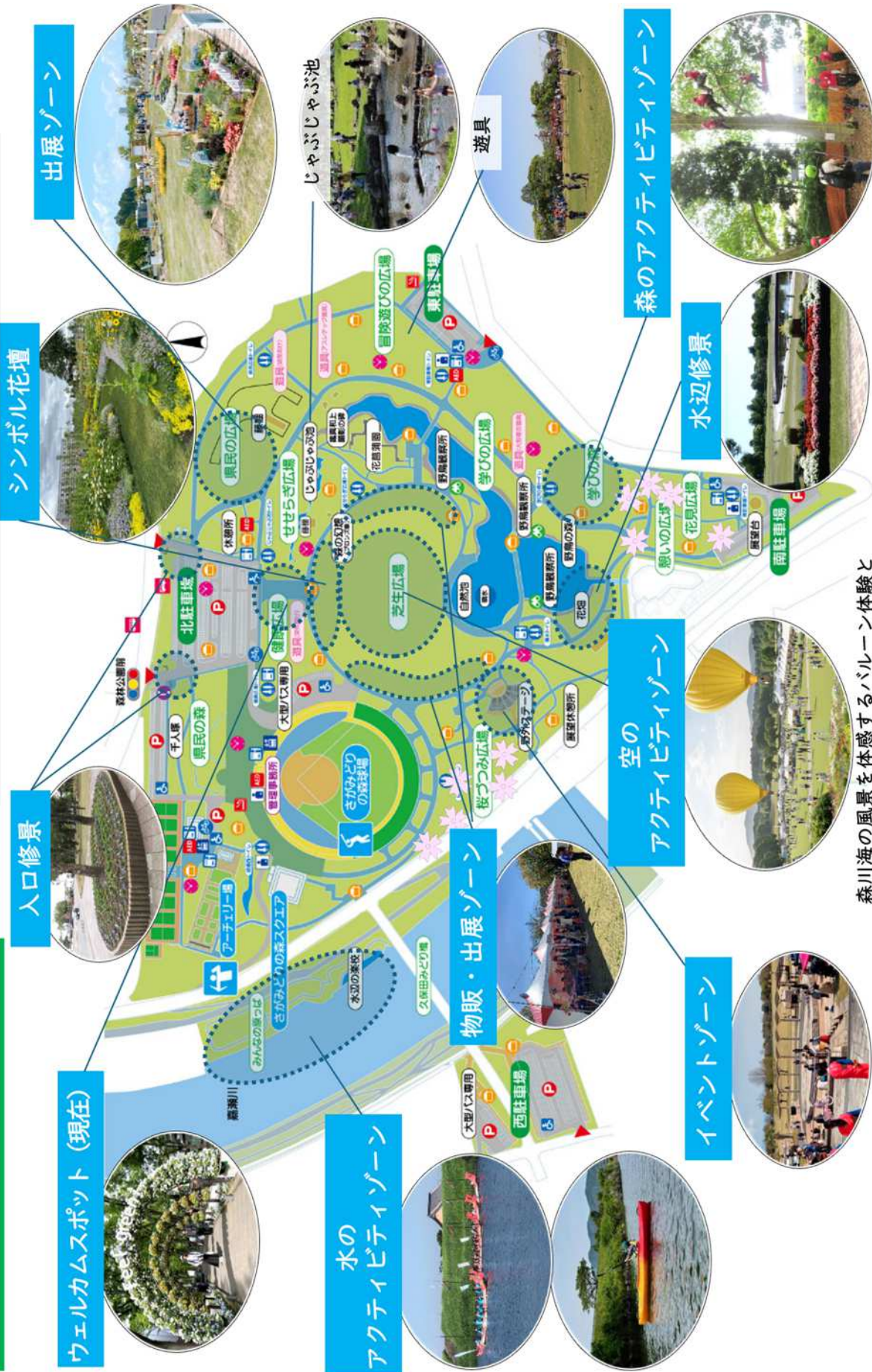
✓遊び、学び、スポーツを通して、佐賀の自然の素晴らしさ、
暮らしと自然の共生を再発見する取組

- ・ 河川空間を使ったカヤック等のアクティビティ
- ・ 森林空間でのツリークライミング等のアクティビティ
- ・ スポーツ施設を活用したアクティビティ

骨太で健やかなこどもを
育むアクティビティ

森林公園(会場イメージ)

現在 県民の多様な活動を発展させるフィールド



森川海の風景を体感するバルーン体験と
治水・利水の歴史を学ぶコンテント

○佐賀城公園

未来

まちと公園の
未来の価値を描き出す

まちと緑の新しいかたちを創出するフィールド

●緑化フェアでの新たなチャレンジ

多様な人々が日常的に関わり、楽しむ空間づくり

●コンテンツ（イメージ）

✓「未来」のまちの姿が
見えるような取組

- ・多様な人々が集い遊べる
“さがすたいる”な空間
- ・佐賀の“まち”と“農”が
出会うエディブルガーデン
- ・未来の循環の姿（森川海のつながり）
をイメージした展示
- ・未来を担う世代が発信する
展示・出展

✓本物の歴史的景観と花や緑の
演出による景観の創出

- ・佐賀城の存在感を引き立たせる
花と緑の展示
- ・協働でつくる花と緑をテーマと
した展示・出展
- ・「未来」をテーマとした
ウェルカムスポット

✓各文化施設等と連携した
企画

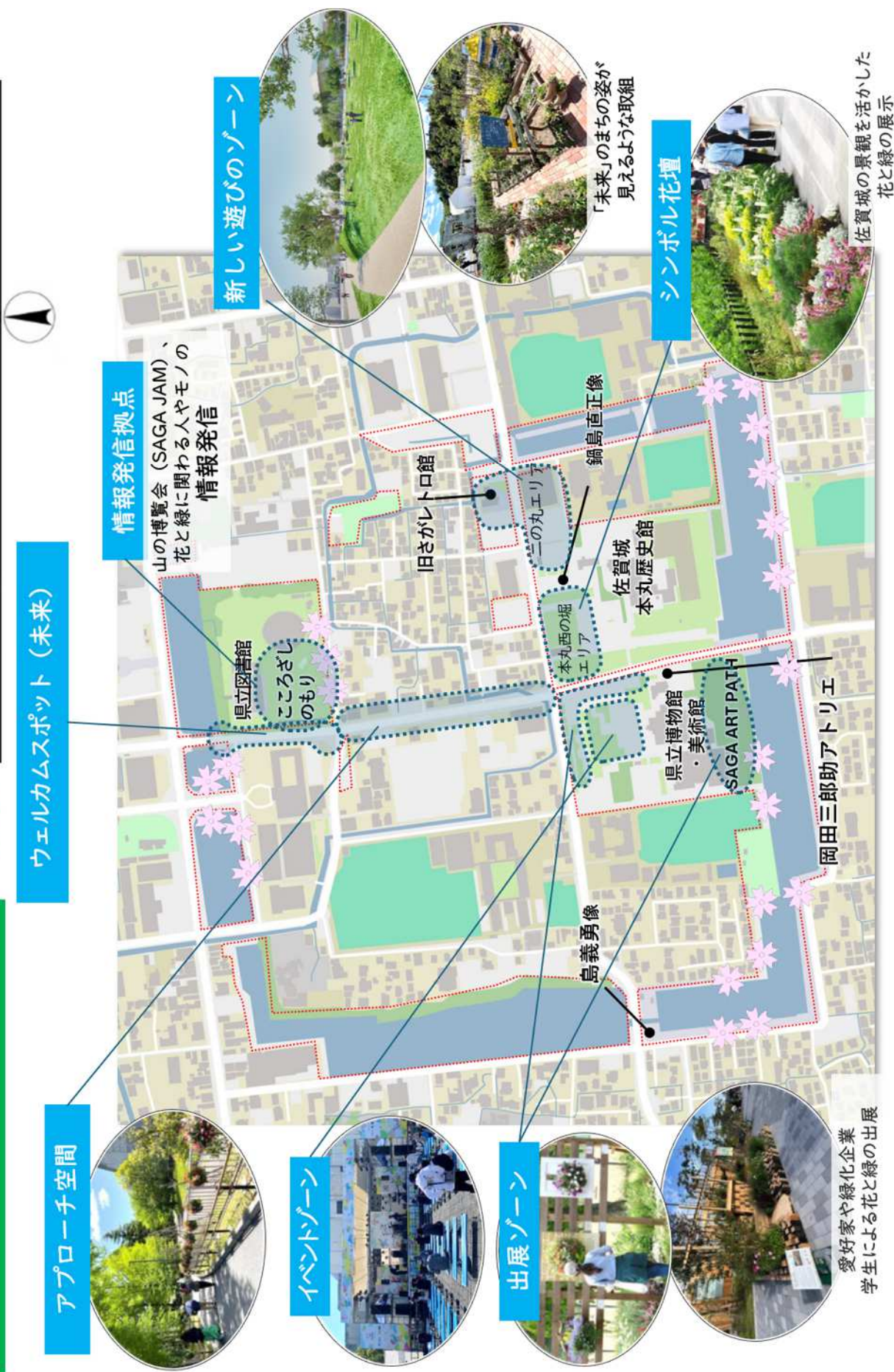
- ・自然との共生・花と緑をテーマ
とした企画展示
- ・山の博覧会（SAGA JAM）に
関する展示、情報発信等

✓歩いて楽しい空間の創出
（佐賀駅～佐賀城公園）

- ・「まち」をテーマとした
ウェルカムスポット
- ・花と緑で彩られた空間
（コンテナや花壇等の出展）
- ・歩くライフスタイルを推進する
仕掛け

佐賀城公園(会場イメージ)

未来 まちと緑の新しいかたちを創出するフィールド



佐賀駅 ～ 佐賀城公園 (イメージ)

中央大通りの緑スポット創出

緑スポットの創出・まちなか展示

ウェルカムスポット (まち)



佐賀駅

至 神埼

R264

佐賀駅～佐賀城公園
約1.5km 徒歩約20分

さが維新テラス



さが維新広場



既存の広場等の活用



ARKS



佐賀城公園

R264



既存の緑化活動との連携



民間施設との連携



4. 事業計画

4-1. 展示計画

「森・川・海はひとつ」を表現するとともに、様々な機会において、多様な人々が関わることを目指します。

多様な人々の関わりを見えるかたちにし、人の想いが伝わる展示とします。

佐賀の「本物の価値」を伝え、広げていく佐賀らしい展示とし、質の高い花と緑の魅力を伝えます。

各会場の入口等には、来場者を盛大に歓迎する雰囲気 연출し、撮影・発信したくなるようなウェルカムスポットを設置します。

●展示展開イメージ

会場	展開イメージ
吉野ヶ里歴史公園	・ウェルカムスポット（過去） 【公園西口・東口】 ・協働でつくる花と緑をテーマとした展示
森林公園	・ウェルカムスポット（現在） 【芝生広場北】 ・協働でつくる花と緑をテーマとした展示
佐賀城公園	<佐賀城公園> ・ウェルカムスポット（未来） 【「佐賀城北御堀端」交差点南】 ・佐賀城の景観を活かした花と緑の展示 【本丸西の堀エリア】 ・未来の循環の姿（森・川・海のつながり）をイメージした展示 ・協働でつくる花と緑をテーマとした展示 <JR 佐賀駅～佐賀城公園> ・ウェルカムスポット（まち） 【佐賀駅前交流広場】 ・花と緑で彩られた空間（コンテナや花壇等） <共通> ・民間団体、学校等が参加する緑スポットの創出・まちなか展示



シンボル花壇



緑スポットの創出



協働でつくる花と緑の展示
(宿根草を中心としたナチュラルスティックガーデンなど)

4-2. 出展計画

企業・団体・学校・個人などが、自ら花壇・庭園などの作品を制作・展示する場を設けることで、志を持って挑戦する人材の育成につながる機会や、未来を担う世代が楽しみ高め合う機会とします。

参加しやすく、参加したくなるような仕掛け・仕組みをつくり、様々な参加者による出展作品を、ストーリー性ある演出などで表現します。

●出展展開イメージ ※設置場所・内容は検討中

○企業出展（緑化関係企業）



▲2025 ぎふフェア



▲2024 かわさきフェア



▲2023 仙台フェア

○自治体出展（負担金施工・自主施工）



▲2025 ぎふフェア

（佐賀県内の高校生が
デザインした出展花壇）



▲2020 ひろしまフェア



○県民・学生・児童による出展

県内の大学、高校、小中学校などによる出展



▲小学生による会場フラッグ装飾
(2022 北海道フェア)



▲小学生によるプランター制作
(左 2021 くまもとフェア、右 2022 北海道フェア)



▲フェア終了後に学校周辺で再活用
することを前提とした花壇
(2021 くまもとフェア)



▲協働事業と連携したパークレット
(2024 かわさきフェア)

県民による出展（ハンギングバスケット、コンテナガーデンなど）



4－3．行催事計画

「森・川・海はひとつ」をフェア会場等で実感できる行催事や、会場のロケーション、特徴的な景観の中でそこでしか体感できない行催事により、佐賀らしいフェアとなるよう盛り上げていきます。

●行催事展開イメージ

○公式行事・記念行事 ※開催場所は検討中

行事	展開イメージ
内覧会	メディアや関係者に対して事前に会場を公開する会。
開会式	フェアの開催理念・テーマを発信する式典。
全国都市緑化祭	フェアの中心的行事として、皇室の御臨席を賜り開催。 記念式典や記念植樹などを執り行う。
閉会式	フェアのレガシーを未来につなげるための式典。

記念式典



全国都市緑化祭

記念植樹



(写真引用：令和5年度全国都市緑化祭報告書)

○主催者催事

会場	展開イメージ
吉野ヶ里歴史公園	・ ライトアップした遺跡群を背景とした夜のコンテンツ ・ 歴史にふれる体験プログラム ・ 本物の歴史と広大な空間を活かしたイベント ・ 古代の植物を知る森の観察会 ・ 農作物を育て収穫し味わうプログラム
森林公園	・ バルーンで上空から森川海のつながりを知るプログラム ・ 様々な主体による自然の学び・体験プログラム ・ 河川空間、森林空間、スポーツ施設でのアクティビティ
佐賀城公園	・ 未来のまちの姿が見えるような取組 （“さがすたいる”な空間、エディブルガーデン等） ・ 自然との共生や花と緑をテーマとした企画展等 ・ 山の博覧会（SAGA JAM）に関する展示、情報発信等 ・ 歩くライフスタイルを推進する仕掛け
その他 （開催場所は検討中）	・ シンポジウム等の緑化の普及啓発に関するイベント ・ 県民、企業等の参加による花や緑に関するコンテスト

夜のコンテンツ



歴史にふれる体験



バルーン体験



河川空間でのアクティビティ



4－4．協働推進計画

県内市町をはじめ、県民や県内事業所、地域の活動団体、学校など多様な主体と連携した取組を準備段階から行い、フェアに向けた機運を醸成します。

緑化フェアと同年開催の山の博覧会（SAGA JAM）や既存の取組との連携などにより、多様な主体による会場づくり、展示・出展、広報宣伝などの計画や、その実施と運営への参画を積極的に促します。

緑化フェアと山の博覧会（SAGA JAM）を通じて、「自発の地域づくり」の輪がさらに広がり、フェア後も各地域で緑化活動をはじめとした自然との共生に向けた取組が持続していく仕組みをつくります。

●協働推進展開イメージ

会場	展開イメージ
吉野ヶ里歴史公園	・花と緑をテーマとした展示・出展 ・OPEN－AIRで楽しむイベント
森林公園	・花と緑をテーマとした展示・出展 ・自然の学び、体験プログラム
佐賀城公園	・花と緑をテーマとした展示・出展 ・未来を担う世代が発信する展示・出展

4－5．飲食物販計画

佐賀の豊かな森・川・海で育まれた「食」を積極的に取り入れた出店の仕組みを整え、来場者が佐賀の風景の中で食を楽しめる空間を創出します。

佐賀が誇る陶磁器などの伝統産業や特色ある農林水産物と連携した産品開発を促します。

●飲食物販展開イメージ

- ・ 佐賀の風景と、花と緑に囲まれた空間で、来場者が佐賀ならではの「食」を楽しめる場を、生産者や出店者と協働でつくりあげます。
- ・ 周辺店舗や事業者と連携し、来場者がまちなかをめぐりながら、佐賀の本物の「食」を楽しめる機会を創出します。
- ・ 県内の生産者や飲食店、企業、民間事業者と連携し、グッズやお土産等の開発・販売を促進します。
- ・ 自然との共生を念頭に、会場で発生するプラスチック等のごみを削減するなど、環境に配慮した運営に努めます。



©佐賀県観光連盟



©佐賀県観光連盟

4-6. 会場運営計画

フェア全体において、誰もが安全で快適に楽しめる管理運営体制をつくりあげます。

佐賀らしい、人が人を自然に支えあう「さがすたいる」の考え方を基本に、多様な来場者のニーズを把握し、誰もが心地よく過ごせる施設やサポート体制を整えます。

フェアをボランティアと一緒につくりあげるための仕組みを構築します。ボランティアに、積極的・主体的にフェアの運営や来場者とのコミュニケーションに取り組んでいただけるよう、募集計画、研修、活動内容などを検討します。

●会場運営展開イメージ

区分	展開イメージ
会場サービス	来場者の快適な会場利用をサポートするため、案内・情報提供・物品のレンタル等の各種サービスを提供 ・案内サービス ・遺失物・拾得物対応 ・介助サービス ・レンタルサービス ・迷子対応 ・ベビーサービス ・運営サイン など
会場管理	安心・安全のため、警備・救護・清掃等により各会場を適切に管理 ・会場警備 ・衛生管理 ・施設管理 ・入退場管理 ・救護 ・清掃・ゴミ処理 ・消防・防災 など

4-7. 広報宣伝計画

広報宣伝開始から開催期間までの各段階で、佐賀が持つ本物の価値や地域資源を活かした効果的な情報発信を行い、フェアへの参画や来場につなげます。

また、緑化フェアと同年に開催する山の博覧会（SAGA JAM）と連携した広報宣伝を行い、県内各地の周遊につなげるなどの相乗効果を生み出します。

●広報宣伝展開イメージ

区分	展開イメージ
デザイン活用	愛称やシンボルマークなどを基にした統一的なデザインを用い、広報媒体、会場装飾、物販商品などの展開に幅広く活用。
PR活動	・プレイベントの開催 ・既存イベントや施設などとタイアップした広報活動
各種広報媒体活用 （マスメディア・WEB・SNSなど）	佐賀が持つ本物の価値や地域資源を活かしたコンテンツを各種媒体で展開。 ・テレビ、新聞、県の広報媒体など ・公式 Web サイト、SNS ・配布物（チラシ、ポスターなど） ・屋外広告物（のぼり旗、横断幕など） ・来場者向けガイドブックの作成・配布
参加者による広報展開	参加者（県民、来場者）の体験や感動を自発的に発信したくなる仕掛けづくりを展開。（フォトスポットの設置、フォトコンテストの開催など）

4－8．植物調達計画

調達する植物は県内生産品を基本とし、県内の花き等の生産・流通状況に即した植物調達計画とします。

短期間に多品種かつ大量の植物を使用することから、植物調達全体を安定的・効率的・効果的に実施できる体制を構築します。

県内の生産者、流通、造園に関する団体などと連携し、植物調達の体制を整えます。

●植物調達展開イメージ

区分	展開イメージ
植物調達	・植物設計に基づいた調達計画及び植物調達リストの作成 ・委託生産調整・発注・生育中の品質確認 ・納品調整及び受け入れ、納品後の仕分け、納品植物管理 ・バックヤード整備、植物施工現場への運搬 など
植物施工	・施工計画の作成 ・植栽基盤施工、植物植栽・植え替え、撤去 など
植物維持管理	・バックヤードの花苗管理 ・移植後の管理（灌水、花がら摘み、補植等） など
その他	・植物ボランティアへの指導 ・協働による取組との連携 など



▲納品検収
(2024 かわさきフェア)



▲植物植栽
(2024 かわさきフェア)



▲花がら摘み・除草
(2023 仙台フェア)

4-9. 交通輸送計画

公共交通機関を最大限活用し、来場者が県内各会場へ円滑に移動できる交通輸送計画を策定します。

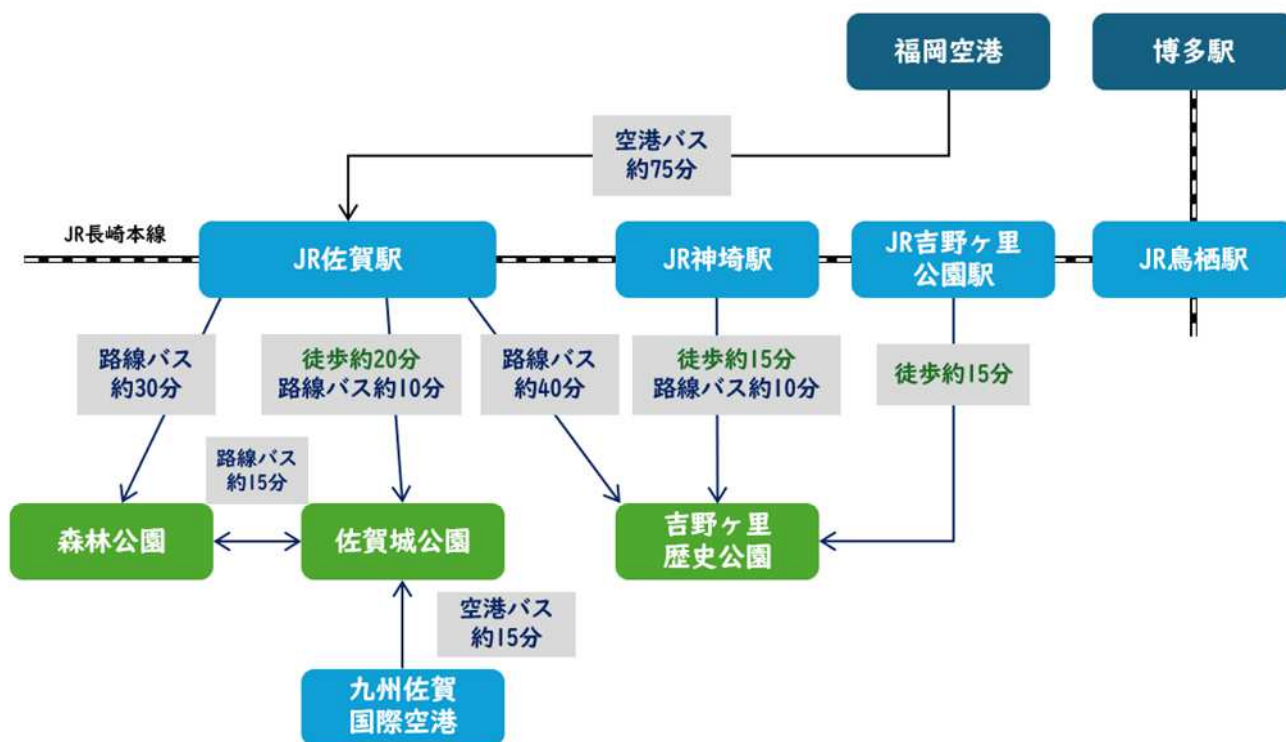
会場周辺の生活環境に配慮した交通輸送を行います。

「歩こう。佐賀県。(歩くライフスタイル推進プロジェクト)」と連携し、「SAGATOCO (サガトコ)※」を活用するなど、移動自体が体験価値となるような工夫を盛り込みます。

※佐賀県公式ウォーキングアプリ SAGATOCO：ウォーキングや健診などの健康活動で貯まったポイントで、県内の様々なサービスを受けられる健康アプリ。

●交通輸送の現状

○公共交通利用会場アクセス



○交通アクセス概要

利用区分	吉野ヶ里歴史公園	森林公園	佐賀城公園
鉄道	○JR 神埼駅から 公園西口まで 徒歩約 15 分 ○JR 吉野ヶ里公園駅から 公園東口まで 徒歩約 15 分	—	○JR 佐賀駅から 徒歩約 20 分
路線バス	○佐賀駅バスセンターから 「田手・吉野ヶ里歴史 公園南」バス停まで ・所要時間 約 40 分 ・運行間隔 1 本/h ○JR 神埼駅から 「田手・吉野ヶ里歴史 公園南」バス停まで ・所要時間 約 10 分 ・運行間隔 0~1 本/h ○「田手・吉野ヶ里歴史 公園南」バス停から 公園東口まで 徒歩約 5 分	○佐賀駅バスセンターから ・所要時間 約 30 分 ・運行間隔 1~2 本/h ○佐賀城公園（県庁前）から ・所要時間 約 15 分 ・運行間隔 3 本/h	○佐賀駅バスセンターから ・所要時間 約 10 分 ・運行間隔 4~12 本/h ○森林公園から ・所要時間 約 15 分 ・運行間隔 3 本/h
自動車	駐車場 約 1,000 台 利用料金 普通車 310 円	駐車場 約 1,000 台 利用料金 無料	駐車場 約 100 台 利用料金 無料

5. 事業推進体制等

5－1. 事業推進体制

■ 実行委員会

基本計画の策定後、円滑な事業実施を図るため、主催者、関係団体等により構成される実行委員会を設置します。

■ 実行委員会事務局

実行委員会のもと、各事業を実施するための組織として実行委員会事務局を設置します。

5－2. 事業スケジュール

	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)
基本構想	懇談会 ●	7月 大臣同意			緑化フェア開催
基本計画		懇談会 12/23 → 3/26			
実施計画			実行委員会 ●		
会場整備			基本・実施設計／会場整備		

第 44 回全国都市緑化フェア from SAGA 基本計画懇談会 委員名簿

区分	氏名	所属・役職
座長	西川 真水	西日本短期大学 緑地環境学科 教授
委員	鵜池 邦敏	一般社団法人佐賀県造園建設業協会 会長
委員	牛島 英人	一般社団法人佐賀県観光連盟 副会長
委員	田中 克実	佐賀県花づくり推進協議会 委員
委員	堤 雄亮	佐賀商工会議所 青年部 会長
委員	寺野 幸子	NPO 法人 ^{ポ コ ア ボ ッ コ} poco a bocca 理事長
委員	真子 真波	佐賀県小中学校校長会 副会長
委員	山口 敬子	株式会社佐賀新聞社 営業局 地域ビジネス部長
委員	山口タ妃子	佐賀大学 芸術地域デザイン学部 教授
委員	山下 裕子	ひと・ネットワーククリエイター／ 全国まちなか広場研究会 理事
アドバイザー	涌井 史郎	東京都市大学 環境学部 特別教授
オブザーバー	江口 慎治	国土交通省 九州地方整備局 建政部 公園調整官
オブザーバー	平尾 健	佐賀県副知事

(敬称略)

懇談会の開催実績

開催日	内容
R7.12.23 (第1回)	基本計画（中間案）について
R8.3.26 (第2回)	基本計画（最終案）について